

認知症患者への関わり方 —ユマニチュード研修を受けて—

新生会第一病院 2階一般病棟 原 三幸

皆さんは「生きること」は何だと思えますか。ユマニチュード（Humanitude）を作ったイヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティはこう言います。「生きているものは動く。動くものは生きる。」この思想と文化を持って病院や施設で援助を必要とする人々へのケアに取り組み「人間は死ぬまで立って生きることができる。」と提唱しました。健康上の問題や年齢による影響でさまざまに機能が低下して他者に依存しなければならない状況になったとしても、最後の日まで尊厳をもって暮らし、その生涯を通じて人間らしい存在であり続けることを支えるために、ケアを行う私たちは常に「私はあなたのことを大切に思っています」というメッセージを発信し続けることが重要です。ユマニチュードでは人間特有の4つの行動科学的コミュニケーションを通じてそれを相手に伝えています。「4つの柱」をご紹介します。

ユマニチュードの基本 4つの柱

③触れる

相手に触れる時は掴まない。下から支え、触れる面積をできるだけ広くすることによって、触れた部分にかかる力を和らげる。体に触れることは脳に触れること、最初は顔や胸、陰部といったプライベートゾーンにいきなり触れない。

◆ユマニチュードの4つの柱を使って、意識的にやってみる



触れる
見る
立つ
話す

④立つ

1日に合計20分程度立つ時間を持つことが出来れば、寝たきりにならない。誇りと尊厳を取り戻す。空間認知（2次元から3次元の視野へ）と社会性の獲得ができる。



①見る

相手が認識している視野に正面から入っていき、瞳を探し視線を取りに行く。近く見ることで、とても親密な関係にあること。水平に見ることで互いが平等な立場にあること、長く見ることによって好ましく思っていることを相手に伝える。



②話す

低めの声で、穏やかに優しく、前向きな言葉を使い、とぎれなく話す。相手からの言葉の返事はなくても、何らかの反応があればそれを相手からのメッセージとして受け止め、言葉で返す。例えば「目を開けてくれてありがとう」などと返す。



ご案内

テーマ「認知症患者と看護師が共に笑顔になれるケア」

場所：新生会第一病院

第1回目:2018年11月27日(火)、第2回目:12月25日(火)

第3回目:2019年1月29日(火)、第4回目:2月26日(火)

上記の4つの柱の技法の実践方法や、認知症患者の関わりを振り返る研修を企画しています。皆様のご参加をお待ちしています。詳細は、後日ご案内します。



災害時の備えについて

平針記念クリニック

災害支援ナース 宮島 恵



今年は、大型台風や記録的豪雨による大きな被害が発生し、尊い命が奪われています。災害支援の経験から、これだけは備えておくといいと思うものを挙げています。個々が日頃から準備をし、「自分の命は自分で守る」が被害を減らす事に繋がります。どこの被災地支援に行っても、「まさか自分が被災者になるとは思わなかった」との言葉が聞かれます。自分でできることは自分で準備しましょう！

食糧	調理用品	トイレの準備	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水 ・缶詰（魚類、豆類、フルーツ等） ・いし食品 ・粉物（小麦粉） 	<ul style="list-style-type: none"> ・カセットコンロ ・カセットボンベなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易トイレ ・ペット用シート（高分子ポリマーと消臭剤が入って便利） 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との連絡手段 ・地域の一次避難場所 ・広域指定避難場所の確認

食糧は、3日～1週間分は必要と言われており家にある食材を入れ替えながら食べる“ローリングストック法”がおすすめです。



※災害支援ナースとは、災害時に被災施設からの要請を受け、適切な人材に依頼して、自己完結型ボランティアとして、柔軟に看護活動支援を行うナースです。

委員会活動 施設としての備え

金山クリニック 防災対策委員会 黒澤雅美



金山クリニックでは災害時に備え、水・食糧などの準備（金山クリニックにその日勤務していると思われる人数分×約3日分）、防災対策委員会が中心となって、一年に一回賞味期限などを確認し、いざという時に不備なく使用できるようにしています。その他ヘルメット（各フロア6個）と災害時に避難する際に必要な避難袋の準備や、歩行して避難できない患者さんを乗せて階段の昇降ができる、エアーストレッチャーを準備しています。



新生会第一病院の入院のご案内

こんな入院生活

新生会第一病院

3階療養病棟師長 松田はるみ

病棟は、2階一般病棟、3階・4階療養病棟があります。快適な入院生活が送れるよう環境を整えています。



4人部屋：間仕切りがあるので、まるで個室のよう



お風呂：安全・安心に介護浴ができます
2階には家庭用を準備



患者食堂・談話室：
ひろい食堂はレクリエーションなどに活用



リハビリ室：市内の景色を見ながら
「イチ・ニィ・イチ・ニィ」

短期入院 こんな人におすすめ

新生会第一病院副看護部長

4階療養病棟師長 片村幸代

短期入院には、透析検査入院、運動機能評価入院、嚥下機能評価入院、療養短期入院などがあります。

ここでは、運動機能評価入院と療養病棟の短期入院を紹介します。

短期入院の種類	期間	対象者
運動機能評価入院	1泊2日	<ul style="list-style-type: none"> ・最近身体の衰えが気になる人 ・透析の通院以外ほとんど家にいる人 ・片足立ちで靴下がはけない人 ・家の中でつまずく人 ・いつまでも自分のことは自分でやりたい人
療養短期入院	30日以内	<ul style="list-style-type: none"> ・介護負担があり、介護する人の休養・リフレッシュを図りたい人 ・独居のため入院して不安解消、栄養改善、自宅生活の意欲を継続したい人

窓口：運動機能評価入院 ①地域連携室 佐々木、一般病棟 原

療養短期入院 ②療養病棟 松田、片村

(嚥下機能評価入院、透析検査入院に関しては①へお問い合わせください)